

# お客様 元気通信



お客さまこんにちは。いかがお過ごしでしょうか？

今年桜の開花が全国的に早まり、こちら（新潟）でも平年より十日以上早く開花しました。新潟市内の中心を流れる信濃川（源流は長野県・山梨県・埼玉県の県境にある甲武信ヶ岳で、日本一長い川。上流の長野県では千曲川と呼ばれています）の土手沿い「やすらぎ堤」には桜並木があり、毎年開花時期になると大勢の人が桜を愛でながらお散歩したりお弁当を広げたりして楽しんでます。その他にも市内には鳥屋野潟公園など桜を楽しめるスポットはいくつかあり、冬の厳しさを乗り越えほんの一週間ほどではありませんが、春のやさしい桜色に包まれ、心を和ませてくれます。この時期が私は一番好きです。また県内には上越市にある高田城址公園や、花魁道中が楽しめる燕市の大河津分水の土手に植えられた桜並木、五泉市の村松公園など、多くの桜の名所があります。残念ながら今年にはコロナ禍で花見の宴は行うことはできませんが、もはや当たり前となつているマスク着用、そして密を避けながらも、春の幻想的な風景を楽しむことはできるのではないかと思います。

人の往来が増え、第四波の到来と言われる中においても経済活動は止めるわけにはいきません。テレビ画面には路上でマスクを外し、密な状況で大声を出し、それに呼応する集団がうつしだされていましたが、そのようなことをしていたのではないつまで経つても収まりません。あとはいかにして自身の身を守るか、そしていかにして生活を楽しむか、一人ひとりの行動にかかっているとおもいます。

さてちよつとお仕事のお話になります。本年は弊社も加盟している全国醸造機器工業組合と日本醸造用品組合が協同し、隔年で開催している「醸造機器・用品展示会」の開催年です。昨年は全国新酒鑑評会が中止となりましたが、本年は現時点では開催する意向が掲載されていることから、関係者と話し合いを行い、東広島市の株式会社サタケ様のシヨールーム内特設会場にて展示会を開催する方向で各方面との打合せや手配を進めております。これから先の状況変化によっては中止を余儀なくされることもあるかと思いますが、無事開催の運びとなりました折には、感染対策をしつかり講じた上で参加企業一堂、多くのお客様のご来場を心よりお待ちしております。それではどうぞ、お健やかな日々をお送りください。

## 日本の野鳥シリーズ



おおみずなぎどり  
大水難鳥

佐藤 弘

昔、上野の国立科学博物館に翼を全開したワタリアホウドリの剥製が吊るされていた。左右の翼端間の寸法が3mという、鳥類最大級。しかし幅が28cmほどの翼に見とれて動かない、ちょっとアブナイ様子のおじさんが度々出没したらしい。

これが外洋の大きなうねりが吹き上げる上昇気流に乗って舞い上がり、滑空する事を繰り返す省エネ飛行で、豪州周辺海域から稀に日本近海に飛来するという。滑空飛行の山の王者がコンドルなら、ワタリアホウドリは海の王者だろう。

これと近縁のおオミズナギドリは、翼開長も全長もワタリアホウドリをピッタリ0.4倍に縮小した体形で、習性もほぼ同じらしい。本種も波乗りの名手だ。しかし、いわゆるサーフィンと違い、波が吹き上げる小さな気流に乗るのであり、進行方向もサーフィンとは逆だから私はこれを勝手にエア・サーフィンと呼びたい。

これが海面スレスレに滑空し、変化する波の傾斜に合わせて体を傾ける際に、時おり翼端が波を切る姿からその名がついた。

本種も北半球と南半球の中緯度帯のいいとこどりをし、我が国には夏に来て繁殖する。海上では自由に飛び回るかれらが、日没後巣に帰る際は軟着陸できずにドスンと落ちてくるという。また離陸もまったく不器用で、おおきく傾いた木の幹を苦勞の末によじ登って飛び降りるようだ。「わたしらの翼は万能ではありません」と楽あれば苦ありのことわざを身をもって示している。

カツオ一本釣り漁では魚群探知器が水中に発する超音波が、波に乱反射して拡散するから遠くに届かない。そこで、カツオが追う小魚に群らがる海鳥の鳥山を頼りに、魚群を探すという。映像で見る遙かな鳥影が私にはミズナギドリ類に見える。

アフリカの鳥ミツオシエは地バチの巣のありかに人間を案内し、人はハチを煙でいぶして巣を掘り出す。鳥はそのお返しに蜜を搾り終えた巣を貰うとか。自分ができない事を人間サマに外注する賢くて憎めないやつだ。はて、毎度食事を邪魔されるミズナギドリは、お詫びと情報提供のお礼に何を貰っているのか。

ミズナギドリ類は英名をシア・ウォーターという。Shear は切断の意味だから、青い目も鳶色の目も特徴を捉える着眼点は同じだ。

膨大なコレクションを誇る大英博物館は入場無料と聞く。上野の博物館が無料だったか否か記憶は定かではない。

お知らせ 好評だった『おみずなぎどり』の野鳥シリーズの冊子が完成いたしました。ご連絡いただければ、次号に同封いたします。

## 我が家のペット ■【黒猫『めい』の脱走】

総務部 部長代理 柳澤 直美



黒猫の『めい』が我が家にやってきたのは2013年の8月。私の実家で保護したのだが家の中で大暴れ。先住猫が情緒不安定になり一緒に暮らすのは無理。引き取ってもらえないか、と頼まれて連れてきた。まずは洗ってあげないと、と風呂場での大暴れを覚悟してシャワーをかけたら「グルグル」と喉を鳴らして気持ちよさそうにシャンプーされている。ドライヤーも嫌がらずにすんなり乾燥終了。当初の「手がかりそう」予想から真逆のいいこちゃんぶり(笑)。当時、我が家にはビビ(白黒ハチワレ)とちょこ(アメショ)の2匹の猫がおり、暫くはシャーシャー威嚇声が飛び交っていたが、時間がたつにつれそれぞれの距離感で落ち着いてきた。

事件が起きたのはその年の12月。夜に帰宅して玄関ドアを開けたときに、サーッ！とドアの隙間から弾丸のようにめいが飛び出して行ってしまった。「あっ、しまった！」とは思ったものの、そんなに遠くへはいかないだろう、と根拠のない予想をしていたのだが…。

その後しばらく家の周辺を探したものの、何しろ夜に黒猫ということで捜索には不向きな条件が重なり見つかられず、戻って外で鳴いていたらすぐにわかるようにとりピングで寝たのだが、その日めいが戻ってくることはなかった。

翌日も捜索したものの、それらしい黒い物体は見当たらず「もしかして事故にあったのでは…」とか「保護されて愛護施設に連れていかれたのでは」と思い、警察や関係施設に確認するも黒猫の情報はありませんよ、とのことだった「いったいどこに行ったんだよー！、めい。」なんとか情報がほしいとダメもとで『猫探してます』のチラシを新聞折り込みで入れてもらうことにし、自宅近くの某地方新聞の販売店に相談したところ、配布範囲と必要数を教えてもらえた。すぐさまチラシを作成し、翌日の朝刊に入れてもらうことに。空振りも覚悟していたが、祈りが通じたのかチラシが配布された当日「コンビニでめいを見た」との情報がきた。めいが目撃されたコンビニは私が探していた方向とは真逆だったうえに、家からは600m以上離れていたため「あいつ、そんなとこまで走っていったんか！」と生きてたことにホッとしたのと体長30cm程度の猫の行動範囲が予想以上だったことに驚いた。

早速そのコンビニに行ったものの、めいの姿はなく…。クリスマス用の仮装をした店員さんに頼んでお店に迷子猫のチラシを貼ってもらい、周辺を捜索しながら帰路についた。

翌日、「公園前のアパートの駐車場にいた」との情報があったものの、行った時にはもう姿はなく、それでも「コンビニから自宅方面にちょっとずつ近づいて来てるのか？あいつ頭いいな」と少し希望が見えたことに安堵。そしたらさらに近くのお宅から「めいちゃん保護しました」と電話があった。聞くとそのお宅も一匹脱走した子がおり、玄関にご飯を置いていたところ、うちのめいが食べに来ていたとのこと。一度は逃げたけものの、すぐに戻ってきたので「めいちゃん」と呼んだらトコトコとやって来て捕獲されたとのことだった。

すぐにキャリアバックを持って引き取りに伺ったら、保護してくださったお母さんに抱っこされグルグルと喉をならしてご満悦のめいと数日ぶりに再会。どれだけ怖い思いしてるか…と数日間心配し続けただけに、そのまったりした姿を見たときはほんとうに脱力感に襲われた(笑)

お礼を申し上げて家に連れ帰り、取り敢えず洗ってあげてからご飯をやったら、よっぽどお腹を空かしていたのか「うにゃっ！うにゃっ！」と声を出しながらガツガツとご飯を食べ続ける姿に思わず笑ってしまった。

こうしてめいの脱走劇は幕を閉じ、当の本人(猫)は脱走中の生活に懲りた？のか、その後は外に出ようとは一切しなくなった。この出来事があるって、我が家の玄関には100円ショップで買ったネットで作った脱走防止柵が取り付けられた。

“ちょっと一息” “コロナのなかで2”



幹事業サポート 山本知男

ついこの前およそ1年ぶりに観客を入れての演奏会に出て来ました。市内のスプリングコンサートと言う催しがあり、そこに参加したものです。昨年は定演も中止し、無観客での発表会だけの活動だったので、久しぶりにお客さんの前での演奏となり、緊張したり、人のエネルギーを感じたり、やっぱりお客さんが居る中での演奏は良いなあと感じたものでした。我々の後でプロの方のピアノとソプラノ歌手のオペラ演奏があり、参考に聞いてみましたが、曲間では奏者が曲の解説やエピソードなどを語ってくれて、さすがプロは演奏以外でも楽しませてくれるなと感心しました。最後のオペラはプーランクの「ティレジアスの乳房」より”いいえ、旦那さま”という曲でした。曲名からしてちょっと色っぽさを感じてしまうのですが、これを面白く解説してくれました。とある町のとある旦那さまにティレーゼと言う奥方がいて、この方はかなりキツイ人で旦那はいつも怒られてばかり。男のように外に出て仕事や戦争したいとか、毎日毎日文句言って不満が貯まってるうちに段々ティレーゼの胸が大きくなってきて、ある日とうとう風船のようになって空に飛んで行ってしまい、そしてそのおっぱい風船が大空で割れてしまった。とそのとたん、ティレーゼは男になってしまった。旦那はその男が奥さんとは分からず、ティレーゼを探す。”いいえ、旦那さま。私はここに・・・”って言うても信じないので、ティレーゼはティレジアスと名前を変えて男として生活して行く、と言う変な話でした。ま、最後は元に戻ってめでたし、めでたしのお話のようです。

それでそのソプラノ歌手は首から風船を2個ぶら下げて登場して、話のように唄って最後はピアニストが風船を突っついて割って、会場大爆笑で終わりと言う、ちょっとした寸劇付きの演奏で、でも楽しかったなあ。

帰ってからママに話して「ママも毎日文句言ってるから、その内胸大きくなって風船になるかな？」って言ったら「バカ！」と一蹴されてしまった。もうちょっと色気あってもいいのにな。

## ◆ちょっと豆知識◆その47 「麴の分析のすすめ」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

かつて、麴甘酒がブームと呼べるくらい市場にあふれていた頃、当社も風に乗かって糖化タンクをそれなりの数納めさせていただきました。

納めた先から結構な確率で、出荷した甘酒が「湧いた」「酸っぱくなった」とのご相談をいただき、その対処法を当社としても微力ながら研究、開発してお客様にお伝えしてきましたが、最終的に、メーカーたるお客様自身が出荷前の安全性を確認できるようにする必要があるはず、と思うに至り、2017年の夏に「甘酒用生菌数測定キット」を発売致しました。

当社と懇意にさせていただいているお客様数社に事前のリサーチを実施、「こんなの欲しかった」「これは絶対売れるよ」との太鼓判をいただき、満を持して発売しましたがまるきり売れず…。何なら「こんなの欲しかった」っておっしゃって下さった方からも注文は来ず(笑)。

安全性担保できない自社製品出荷するってうちのお客さんたちどうなってるのよ、と毒を吐いて意気消沈していた私のもとに、ある方から「甘酒用ってなってるけど、これで麴の細菌数測れない？」とのご相談をいただきました。

弊社研究室のスタッフが調べたところ、当該キットに採用したペーパー培地にはカビや酵母は生えないことが分かりました。また、抽出剤と麴を1分間シャカシャカ振るだけで、公定法らしき方法との相関は十分高いことが確認できました。

麴の細菌数と清酒の異臭の生成量には相関のあることが報告されており<sup>1)</sup>、製成酒に癖が見出された場合、まずは麴の汚染度を検証する必要がありますが、かつて醸造協会から頒布されていた YAS 培地や BCG 培地は、売れなかったからなのかいつのまにやら姿を消してしまいました。

今 BY、新潟県・千代の光酒造様において、弊社のアドバイスのもと当該キットを使って麴の汚染度を定期的にモニタリングしていただいたところ、多くの知見が得られたと大変喜んでいただきました。池田社長様からは「こんな良いものなんでもっと早く紹介しないんだ」と叱られる始末で…。

ご希望の方には資料等差し上げます。是非ご相談下さい。

### 【参考文献】

- 1) 金桶光起：清酒中の4-ピニルグアイアコール生成要因、醸協, 108 (5), 320-326 (2014)

エッセイ

サラメシ



生産部 島貴 修一

毎回ビデオに録画し見逃さないようにしている番組がある。それはNHKの「サラメシ」で、画面に映る全国のサラリーマンの昼メシを、いつも羨望のまなざしで見つめている。なぜなら自分自身のサラメシは事業所向けの宅配弁当で、弁当屋が休みの時や休日出勤ではコンビニ弁当で済ませてしまう事が多い。だから手間をかけた手作り弁当にあこがれてしまう。特に「愛〇弁当」には、〇に入る文字は妻か人が猫にしておこう。しかしそんな私でも弁当を手作りする時がある。

ただし手作りとは言っても冷凍室の底でカチカチに凍っていて、いつ調理したかも忘れてしまったような不気味な物で、冬眠食と呼んでいる。焼きそば・カレー・チャーハン・炊き込みご飯などは数食分(3~5食)まとめて作り、1食分ずつ小分けして冷凍している。食べる時はレンジで加熱するだけで便利だが、いつしか忘れ去られ冷凍室の底で冬眠している物がある。これを密閉容器に入れて会社に持って行き、レンジすれば手作り弁当だ。

1月に食べた冬眠食は筍ご飯で、春が旬だから前年の5月に調理したものと思われる。3月に食べた焼きそばも前年の夏に調理だが、味も食感も炊き立て焼き立て。これも進歩した冷凍技術のおかげ。今も冷凍室には焼きそばと炊き込みご飯が2食ずつと、正体不明(凍っていると外観から判別しにくい)が1食残っており、今回はこの正体不明をサラメシにしてみよう。解凍すれば正体が判るが何だろう。

後日談。正体不明は「豚バラ玉ねぎ炒め丼」でした。広げたラップの上にご飯と残った「豚バラ玉ねぎ炒めオイスターソース味」を載せて包み、そのまま冷凍した残り物利用のお手軽丼です。

## 今、はまっていることは? ■【中学同級生 line グループ】 総務部 神田 直枝

同級生の間では、「奥さん」や「社長さん」は存在しない。なぜなら「中学生だから。」

そして「同級生 line」はあったが、飲み会の出欠連絡以外は既読スルーか亀レスしていた。新型コロナ禍までは、ところがその状況が一変した。ウイルス禍によりまず感じた不自由はマスクが手に入らないこと。「今日は〇〇でマスク買えるよ」「マスク作り用の布も糸も品切れ」「駅前で〇〇に会った元気にしてたぞ」「今日変なマスクの人見た」「コロナに負けるな!」「忘年会で元気な顔みせてくれ!」「早く顔みたい!」と近況メールを見る度、私の気持ちは変わって行った。

私は家にあった布で下手くそだけどマスクを作り、それを line にあげて好きなマスクを選んでもらいメンバーに郵送してみた。そうしたら自発的にマスクを付け自撮り写真を line に皆がのせはじめた。ああ皆元気だ。大きなほっぺがあふれ、マスクが小さいとつぶやいた顔、お家の様子や家族も一緒に写ってる顔。可笑しくて久しぶりに大笑いした。その年の忘年会は、続き話で盛り上がった。

気が付いたこと、面白い事、相談事、何か見た時、「今晚は流れ星見えるぞ」「今、花火見えるよ」「畑借りた。一緒に育てないか」「生前葬すると長生きするそうだ、新型コロナが終息したらやりたいから参加してくれ」「今日オーロラ見た→新聞に投稿する?→虹の類?→虹が雲に反射?→誰かオーロラツアーに行ったよね→カナダオーロラツアーで見た人が写真 up→現象が見れたのは良い予兆だ」なんでもつぶやく。

同級生はタイムマシーンであの時代に連れ帰ってくれる。頼って励まされ守られていると安堵する。同級生 line これが「今、私はまっていること」です。